

ご挨拶

「シーズとニーズの出会い」

研究統括 山本 明夫

戦略的基礎研究推進事業の「単一分子・原子レベルの反応制御」領域がスタートして以来、5年が経過しました。第1期チームのプロジェクトは今年の3月で終了し、第2期、3期のチームもまとめの段階に入っています。これまでの成果報告シンポジウムはすべて東京で行ってきましたが、関西関係の皆さんにも聞いて頂くため、今回は京都でテーマ別シンポジウムを開催することにしました。全19チームのうち、錯体関係及び有機合成触媒に関係のある研究チームをえらび、共同研究者にも講演をお願いしています。さらにこの主題に関連した研究を展開しておられる研究者の方に招待講演をお願い致しました。

これからは、いろいろな意味で「評価」が問題になってきます。研究助成を評価するには、事前、中間、事後の評価がありますが、まず、助成すべき研究者を選びだすための事前評価がもっとも重要だと思います。優れた研究リーダーを選べば、放っておいても、どんどん研究を進め、傑出した成果が出てきます。CRESTのこの領域の研究では、優れたアドバイザーをお願いして、書類選考とインタビューによって研究代表者を選びました。ベテランの研究代表者とともに、若手の研究代表者も選抜され、CRESTの豊富な資金提供によって、研究が見事に離陸し、世界中から注目を集める成果が得られつつあります。

このような、大学において生み出された成果が、日本の企業における鑑識眼のある経営者、研究者によって、なるべく早く認識され、独創的研究における大学のシーズと企業のニーズが合致するような成功例がどんどん出てきて欲しいものだと思います。それには、企業側のニーズの所在を大学側にインプットすることと、大学側のシーズを企業側がなるべく早くキャッチすることが重要ではないか、と思います。大学側の研究者も、おのおのの研究成果をいかに分かりやすく、魅力的にプレゼンテーションするか、工夫する必要がありますし、企業側もその鑑識眼が問われるところです。今回のシンポジウムは、その意味で、企業側にとっても日本の大学で行なわれている最先端の研究をまとめて聞く良い機会だと思います。

多額の研究助成に見合う成果が得られているかという点も含めて、率直な評価を聞かせて頂きたいと思います。